



CIF JAPAN

NEWSLETTER No.38

<http://cif-japan.papnet.jp/>
cifjapan08@gmail.com

Council of International Fellowship Japan

発行人 NPO 法人 CIF ジャパン 理事長 坂本 正路
編集人 坂岡隆司 発行日 2018年3月1日
事務局 〒607-8216
京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
TEL 075-574-2800 Fax 075-574-0025

第2回国際研修を無事に終えて

理事長 坂本 正路

新しい年を迎えて、会員皆様にとりまして良き年となりますようお祈りいたします。

昨年、2017年はCIFジャパンにとりましてはIPEP(国際研修)実施の年として、実り多き年となりました。前回の2015年の第1回IPEPでは、竹内前理事長がご尽力くださったお陰で、数々の課題を克服し、成功裡に終わらせることが出来たのですが、今回は竹内前理事長のお助けのない中での実施のため、大いに不安のある中での準備のスタートでした。しかし研修会の準備会を進めていく中で、会員のみならず、ボランティアの方々のご協力によって、充実した準備が進められました。

今回の研修の特記事項は、アジアのタイからの研修生を含めて4名の方々をお招きすることが出来たということです。経費的な面での心配はありましたが、種々の努力によって予算内で納めることが出来ました。

しかし、今回の成功ある研修実施に際しては坂岡隆司副理事長の公私を度外視しての準備と関わりがあつての事であることを忘れてはなりません。時には本務のからしだね館の業務より優先して研修に関わってくださいました。そのためにからしだね館の職員の皆様には大きな負担をおかけした事と存じ、ここにお詫びとお礼を申し上げます。

さて、今年度のCIFジャパンの活動計画は、各国で行っている国際研修に日本から研修生を送り出すということ。そして、来年度に予定されているCIFジャパンの国際研修をどのような形で実施するのかということを決めていくことです。特定の個人や団体に負担が集中するのではなく、CIF会員や、協力して下さるボランティアさんにできる範囲での協力をいただいで実施する必要性を強く感じます。さて、それにはどんな方法があるのでしょうか。会員皆様のお知恵をお借りしたいと思っております。

ご支援ご協力有り難う ございました

副理事長(財務担当) 梶村慎吾

CIF ジャパン主催の第2回IPEP(国際交換研修)が昨年10月、ご支援くださった大学・諸団体・個人の方々の心のこもったご支援・ご協力を得て成功裡に終了することができましたことに対し、CIF ジャパンの一員として、ご協力いただいたすべての組織・個人の方々に心から感謝申し上げます。この事業が、世界及び日本の社会福祉・人的サービス支援の事業の向上のために貢献するものでありますことを祈念しております。ご支援を心から感謝申し上げます。



Farewell Party

IPEP を終えて

副理事長（広報担当） 浅野純江

国際研修の受け入れに際し、多くの会員の協力を得ることが第一の課題でした。千葉県在住の私も微力ながらできることはないかと考え、海外参加者とのメールや書類のやりとりを担当させていただくことになりました。一年前の募集開始の段階から、研修の企画運営に携わる会員相互の意思疎通を密にしながら作業を進めました。応募者の参加申請書の翻訳には、遠方にお住まいの多くの会員の方がたが協力してくださいました。参加者にはひとりずつ「メールフレンド」を決め、個別の質問や不安に対応することができたのも作業を分担するうえで良い試みだったと思います。

CIF 本部には IPEP 実施マニュアルがあり、研修開始日の何か月前までにどのような情報を各国支部や応募者に提供すると決められていますので、それらを考慮しながら受け入れの準備を行うのは、理事長、副理事長を始め、開催地の京都、大阪在住の方がたにはほんとうにご苦労が多かったことと思います。皆様の献身的なお働きに感謝いたします。

次回の研修の際にも全国の会員が何かの形で運営に参加して、「CIF の国際研修」がますますユニークな意義あるものに発展していくよう願います。

PAY FORWARD

～第2回 IPEP を終えて～

副理事長（事務局長）坂岡隆司

第2回 IPEP が、無事に、大きな成果を挙げて、終了したことを、心から喜んでます。

前回の経験があるとは言え、2回目なりに一からのスタートでした。研修生の選考、本部や支部との交信、プログラムの構築や調整、ホストファミリーや通訳の問題、会計のこと・・・等々。その他にもいろいろありますが、とにかく、様々な方々が心を寄せ、力を貸してくださいました、その結果、一つの作品のようにして出来上がったのが、今回のプログラムだったという気がしています。もちろん、完璧ではありませんでした。失敗も反省点も多々ありました。けれども、それらを打ち消すぐらい大きなものを得て、4名の研修生たちは帰って行きました。それは彼らが、いろいろなどこ

ろで異口同音に表現してくれている通りです。

それはさておき、今回の研修に関わる中で、私はあらためて、CIF の原点について考えさせられました。

それは、ひと言でいえば、PAY FORWARD ということです。人から受けた親切（厚意）は、他の誰かに返そう、という意味です。考えてみれば、私自身も30年前、アメリカでのC I P研修で、たくさんの方々にさんざんお世話になり、多くの学びを経験しました。そのことが、私自身のCIF活動の動機にもなっていますし、もっと言えばそれは、福祉の仕事をするうえでの私の基本姿勢に響を与えているように思います。

そんなことを考えていたら、たまたまインド在住のナンディ聿子さん（1973 Columbus）からのメールの中に、全く同じことが書いてあったので驚きました。以下、引用します。

坂岡様 メールありがとうございます。
オーレンドルフ博士が、私たちに残してくれた言葉の通り、CIF Japan の皆様の情熱でもって、この研修を成功され、とてもうれしくおもいます。博士は、貴方が受けた、サービスは、その人に返すことができなくても、誰かが必要としていれば、その人に返せばいいといわれていたのです。私は、何もできませんが、今後のご発展をお祈りいたしております。

Delhi, Nandi

C I P の創設者、オーレンドルフ博士のこの言葉こそ、まさに Pay forward ではないでしょうか。福祉、平和、正義、相互理解・・・それは、独りよがりの研究からではなく、こうした身近な実践の中でこそ実現していくのだと博士は考えられたのではないかと思います。Pay forward は、もちろん強制されるものではありません。しかし、Pay forward が無かったら、おそらく IPEP はできないでしょうし（当然私たちも他国のプログラムの恩恵にあずかれません）、CIF の意味も無いのではないかと思います。竹内前理事長も何年前の本紙にこう書いておられます。

「数年前から、CIF の会議に出るごとに、『CIF は IPEP である』というフレーズをよく耳にするようになりました。CIF は私たちの過去を回顧する場でもありますが、むしろより多く、初めの理想の実現をめざす集団として、その努力をする限り存続の意義を失わないであろうと思います。」（ニューズレター2014/10/1号）

ともあれ、皆様ほんとうにお疲れ様でした！！



ゴテゴテの「大阪プログラム」

監事 上利久芳

(社会福祉法人聖家族の家 理事)

前回は一人の案内でしたが、今回は全員（2日目はナッティ不参加）を案内しました。初日に、NPO「CHARM」(HIV医療相談)で大阪の「エイズ事情」について学んだあと、全員で「天満市場」でお惣菜(数種)を購入して「CHARM」で用意されたものに加えてのミニバイキングでいただきました。午後は、梅田の繁華街にあるNPO「MASH」(ゲイの健康相談)で、大阪の「ゲイ事情」について学びました。

2日目は、終日「あいりん地区」(釜ヶ崎)での学びとなりました。午前中は「出会いの家」(無料宿泊所)を訪問し、創設者の渡辺氏より開設の目的やその実態について学び、昼食は新世界の「王将」でとり、「愛徳姉妹会」(修道女による)でのホームレス支援の実態、「西成市民館」でセトルメント事業の実態等、そしてNPO「ホームレス・シェルター」(500床)でお話しに加えてシェルター内の見学をしました。更に当初予定していなかった「西成労働福祉センター」の見学で終了しました。「あいりん地区」を堪能できたのではないのでしょうか。



大阪西成にて。左より、上利、Fred、一人おいてJaana、Conny、昔藤、田中(同志社大)の各氏

Nattieさんを迎えて

江口敏一

(児童養護施設 栄光園 理事・施設長)

CIF Japanの企画である国際交換研修(IPEP)の一環として2017年10月13日から19日までの1週間、栄光園では初めてのタイのソーシャルワーカー(Nattieさん)の研修受け入れを行った。

子どもたちにとっては、毎週、市内の立命館アジア

太平洋大学(APU)の学生とスピードラーニングを通しての交流の機会、また、カナダ人とのスポーツや音楽を通しての交流がある。小中学生の中にはイングリッシュキャンプの経験児もおり、ドイツの児童養護施設の施設長との交流、ケルン大学の学生の施設実習など、栄光園は外国の方を受け入れる機会が多い方かもしれない。小人数の来訪者たちは、子どもたちと夕食をすることも多く、好奇心の大きい子どもたちは文化の違い来訪者との交流を望み、楽しんでいるようだ。

このような中でもタイの方の来訪は初めてで、児童福祉の専門家でもあるソーシャルワーカーNattieさんの、聡明で、心優しく、人懐っこさを感じるキャラクターは、子どもたちが近づきたい人気者であった。

今回、施設としての受入れは、担当職員がドイツの児童養護施設に半年間実習に行っていることもあり、実習期間が短い中で、施設の様子はもちろん、人口12万人の別府の地域性、児童福祉の状況を知っていただく見学の機会など、矢継ぎ早で十分な成果が得られたか気になるところである。

今回、日本の文化に触れる機会としての近隣でのホームステイ先を探すことなく、敷地内にある子どもの自立訓練のための1LDKの一軒家で起居していただき、各6名が生活している6軒のホームのいずれかで、食事や交流の機会を持っていた。生活の受入れ、実習のプログラムについては改善の余地があると思っている。

児童福祉法が2年前に大改正され、日本の児童福祉が、パーマネンシー(永続的)支援の方向に向かう中で今後の社会的養護のあり方が問われる状況がある。私たちが、新たな方向性を模索するうえでも、異文化の中で児童福祉に携わっている方の感性や意見をうかがうこのような機会は、大変ありがたく、ぜひとも継続していきたいと思っている。

栄光園は戦後の混血児の支援をと多額の献金をされた米国の宣教師の尽力で始まった経緯がある。また、私自身も福祉に携わる上での理念をCIPのプログラム参加で得られたと考えており、ドイツに行っている職員の研修も先方の好意によるものが大きく、国際社会に対しての恩返しを心の中に常に抱き続けている。

今回、このような機会を与えられたことを、心から感謝いたしております。



左端Nattie、右端江口氏

同志社大学に研修生を迎えて

木原克信

(同志社大学 社会学部 教授)

今年も、CIFからの依頼を受け、アメリカ・エストニア・オランダ・タイの個性的な研修生4名を受け入れて同志社大学で研修していただきました。このことは、同志社大学にとっても国際交流の場となり、すばらしい機会になったと思っています。社会福祉教育においても、国際的な機関、そして地域の施設とこのような場を通して、つながりを持つことは大学が机上の空論や思弁から脱することになり、その社会的使命を果たすという観点からも大変意義深いことかと思えます。

特に今年は、英語が十分にできる学部学生たちが何人かいたこともあって、かれらが学内案内、観光案内、会食など積極的にその役割を買って出てくれたことは、研修生にとっても日本のソーシャルワーカーの卵たちである若者と交流することになり、国際交流の意義を際立たせた結果となったようです。学生たちにとっても、海外の現役ソーシャルワーカーの来訪とその交流には大変刺激があったようです。もちろん学生たちのなかには、もっと英語がうまくなれば深い交流ができたのに、と発奮材料になった学生もいたようですが、これもまた教育効果の一つであろうと思います。大学は開かれた場所であるべきだと考えている者として、今後もこのような国際交流を活発に、とりわけ地域の福祉施設・機関と連携していくことができれば幸いです。

同志社にこのような貴重な国際交流の機会を与えてくださいましたことに心から感謝いたします。



同志社大学にて。後列左より工藤、三宅、学生1人おき中央木原教授、右へFred, Jaana, 坂岡、坂本、前列左より学生2人の隣にConny, Nattie

《会員の皆様よりメッセージ》

10月19日聖隷福祉事業団 山本誠氏より

CIF Japan 事務局、皆様

いよいよ国際研修も終了でしょうか。送別会に顔を出せればと思っておりましたが、やはり難しそうです。今日は、フィリピン・ベトナムから静岡県内にEPA介護福祉士として来ている人たちの宿泊研修への対応でした。1月には、日本の介護福祉士の国家試験受験を控えている人たちです。こうして、海外から学びに、働きに来ている人たちに関わることができることをとてもうれしく思っています。来週は、ベトナムに出張です。福祉に関わりながら、また海外につながりながら仕事ができることに感謝です。お忙しい中、国際研修に関わって下さった皆様、本当にお疲れさまでした。何もできなくて、申し訳ありません。研修生にとって、日本でのこの研修が未来に向けての大きな学びになりますように！！

10月18日神戸YMCA 牧田稔氏より

いつもCIFの情報をいただきありがとうございます。ボランティアでまた数少ない事務局支援者で、また資金がないのに研修受け入れに尽力していただいていることに感謝と敬意を表します。学部は異なりますが、母校同志社大で海外研修受け入れの講義がなされていることに親近感を覚えます。研修生にとって京都市は、日本の文化理解にとって最善の場所だと思います。何もお役に立てず申し訳ありません。研修受け入れに大きな成果がありますように！！

10月10日熊本YMCA 小山哲夫氏(1977Cleveland)より
ご連絡感謝です。

10月10日筑波大学 奥野英子氏(1973TwinCities)より
いつもお世話様です。今年度のプログラムがスタートしたのですね。皆様のおかげです。感謝しています。4枚目の写真は、同志社大学での写真でしょうか？(中略)私は11月16日に京都に行く予定になっていますが、その頃は、もう今年のプログラムは終わっているのでしょうか。なにもお役に立てなくて、申し訳ないです。どうぞお元気にお過ごしください。

インド、ナンディ聿子氏より

メールありがとうございました。オーレンドルフ博士が、私たちに残してくれた言葉の通り、CIF Japan 皆様の情熱でもって、この研修を成功され、とてもうれしくおもいます。博士は、貴方が受けたサービスは、その人に返すことができなくても、誰かが必要としていれば、その人に返せばいいといわれていたのです。私は、何もできませんが、今後のご発展を、お祈りいたしております。 Delhi, Nandi

第2回 IPEP 概要報告

- 期間：2017/10/6（金）～10/21（土）
- 参加者：Conny（オランダ）、Jaana（エストニア）、Fred（アメリカ）、Nattie（タイ）以上4名
- 協力機関：同志社大学、日本バプテスト連盟、聖家族の家、NPO 法人 CHARM、フジの会、京都国際社会福祉協力会、栄光園、ミッションからしだね、バザールカフェ、MASH、愛徳姉妹会
- ホームステイ協力（敬称略、以下同）：苜蓿寂泉、那須勝子、砂川靖子、所久雄、友永満子、齋藤栄子、坂岡隆司、栄光園、横田美紀子（調整）
- 通訳協力：網野俊賢、久保寿見子、武山世里子

■事業経過（本年度分）

2017年

5月20日 事務局 選考会

応募者なんと14名！ その中から4名決定。

7月08日 事務局 第1回準備会

8月05日 事務局 第2回準備会

8月26日 東京・学士会館 第3回準備会

9月16日 事務局 第4回準備会

10月7日 事務局 オリエンテーション

10月19日 からしだね館 International Day

10月20日 事務局 Evaluation 送別会

11月25日 事務局 総括、反省会

■会計報告（単位：円）

<収入>

愛恵福祉支援財団助成金	300,000
寄付金	255,197
参加者負担金	155,508
法人負担金	220,000
合計	930,705

<支出>

人件費	381,700
会議費	212,057
印刷製本費	21,600
交通通信費	272,900
雑費資料費	42,448
合計	930,705

寄付者（敬称略） 2018/1/22 現在

奥野英子 前田大作 江口敏一 青木雅子 村上基子 牧田稔
冷水豊 ナンディ聿子 田川佳代子 竹内圭子 上利久芳
祝部康二 青木秀美 岸川洋治 山本誠 苜蓿寂泉
久保寿見子 武山世里子 浅野純江 梶村慎吾 坂本正路
坂岡隆司（順不同）

（皆様ありがとうございました！）

前回に続き今回も、公益財団法人愛恵福祉支援財団様のご助成を頂戴しました。心より御礼申し上げます。
（Farewell Party には、同財団常務理事の杉浦孝夫様もご出席くださり、ごあいさつも頂戴しました。）

●IPEP 研修プログラムイメージ ↓

日	曜日	プログラム内容	備考
10月6日	金	開空到着～随時MKTウーで京都へ移動 NATTIE (Via) 西に到着 (9月30日) CONNY & JAANA 8:55着 FREDERICK 20:30着 午後3時～各宿舎チェックイン (迎えは無し) ***** 18:30 歓迎夕食会 (会場: 京カたまや)	全員
10月7日	土	8:45 ホテルロビー集合 (坂本引率) 10:30 オリエンテーションからしだね館 12:00 昼食 (Free Ceremony) (かしだね館) 14:30 Hostfamily Living にて説明 15:00 ホテル退室 15:30ホテルへ移動	全員
10月8日	日	FREE	
10月9日	月	10:15 同志社大学新町キャンパス浸水館集 会 10:30～12:00 講義「日本の障害者、高齢 者福祉 親(マレー系) 同志社大学 11:45昼食 同志社 美術館階レストラン 13:00～15:00 講義「日本の社会福祉政策、国 際福祉 (マレー系) 同志社大学」	全員
10月10日	火	社会見学 (京都国際センター) 8:30地下鉄東山駅～登山駅(出たところ) 集合 案内: 橋本紗子 11:45昼食 同志社 美術館階レストラン 13:00～15:00 講義「日本の社会福祉政策、国 際福祉 (マレー系) 同志社大学」	全員
10月11日	水	10:15 同志社大学新町キャンパス浸水館集 会 10:30～11:00 同志社の福祉政策クア ンタイル 11:00～12:00 講義「日本の社会福 祉、国際福祉 (マレー系) センター」	全員
10月12日	木	研修日① 8:30 JR長樂駅西口(2階南自由通路集合 構内) (出発まで) 9:00京都駅発快速に乗る。大塚着:28. 10:00～12:00 大塚で上利が迎える。(ホームから動 き出し) 10:00～12:00 大塚 NPO法人 CHARM 見学と討論 4V 障がい者や外国人の支援	全員
10月13日	金	研修日② 集合場所は研修生内で決定 9:00京都駅発快速に乗る。大塚着:28. 10:00～12:00 大塚で上利が迎える。(ホームから動 き出し) 10:00～12:00 大塚西成区のホームレス支援の実態 午前11時～12時 午前12時～13時 午前13時～14時 午前14時～15時 午前15時～16時 午前16時～17時 午前17時～18時 午前18時～19時 午前19時～20時 午前20時～21時 午前21時～22時 午前22時～23時 午前23時～24時	CFJ
10月14日	土	NATTIE 別府へ移動 9:50 京都発 13:48 別府着 14時研修光園集 歓迎会 京都市内:馬場親光・ガク: タクシーで巡回、時間貸切巡回 コース: 金閣寺、清水寺、伏 見稲荷 集合時間:8:30 集合場所:京都駅 担当:引率佐野	CFJ
10月15日	日	NATTIE 別府実業園(別府温泉地帯めぐり、高城山モーターセンター-16,17,18の昼間に変更可) FREE	N
10月16日	月	研修日③ CONNY+Fred+JAANA 昼食 フジの会ケアハウス食堂 ～13:30 950坪のケアハウス集合 1000～ 社会 14:00～16:00 京都国際社会福祉協力会施 設(認知) 施設法人フジの会施設(高齢、精神、保健) 施設(認知)	CFJ
10月17日	火	NATTIE 別府実業園 (別府の児童養育施設(ルーテルとカトリック)見学) 夕食はマツモトホ TEL 別府実業園 (午前:日本の児童福祉、午後:栄光園の沿革・理念・組織) 夕食はまふたホ TEL 別府実業園 (午前:日本の児童福祉、午後:栄光園の沿革・理念・組織) 夕食はまふたホ TEL 別府実業園 (午前:日本の児童福祉、午後:栄光園の沿革・理念・組織) 夕食はまふたホ	N
10月18日	水	研修日④ 10:00～16:00 CONNY+Fred+JAANA からしだね NATTIE 別府実業園 (別府の児童養育施設(ルーテルとカトリック)見学) 夕食はマツモトホ TEL 別府実業園 (午前:日本の児童福祉、午後:栄光園の沿革・理念・組織) 夕食はまふたホ TEL 別府実業園 (午前:日本の児童福祉、午後:栄光園の沿革・理念・組織) 夕食はまふたホ	CFJ
10月19日	木	研修日⑤ 10:00～18:00 CONNY+Fred+JAANA からしだね NATTIE 別府実業園 (別府の児童養育施設(ルーテルとカトリック)見学) 夕食はマツモトホ TEL 別府実業園 (午前:日本の児童福祉、午後:栄光園の沿革・理念・組織) 夕食はまふたホ TEL 別府実業園 (午前:日本の児童福祉、午後:栄光園の沿革・理念・組織) 夕食はまふたホ	CFJ
10月20日	金	14:00 Evaluation ～15:30 17:30-20:00 終了 ceremony 送別会 (お別れ会) 17:30	全員
10月21日	土	予備日	

<第2回 IPEP 研修生の横顔>

●JAANA KIKAS エストニア

職員1300人規模の病院の人材管理責任者 (Human Resource Manager)。障害をもつ求職者や従業員のカウンセリングなども行う。

●CONNY AALSVOORT オランダ

スウォン・シニアネットワークのスタッフ。高齢者の在宅福祉に取り組む。高齢者(特に多文化圏からの)ケアについて関心あり。介護ロボットなどにも。

●VISA (NATTIE) SUEBPETCH タイ

バンコク・マヒドール大学シリライ薬事学校における心理精神症状のある児童青少年を対象とした分野でソーシャルワーカーとして働いている。児童青少年問題に取り組む。養子縁組、児童養護関係の機関とも連携。

●FREDERICK PENCE 米国

フィラデルフィア高齢者サービス提供機関(非営利)のサービスコーディネーター。地域の貧困高齢者の様々な課題に取り組む。

CIF ジャパン講演会

(CIF 国際交流研修参加報告会)

が開催されました。

去る2017年11月25日(土)、13:30~15:15、からしだね館において、工藤壮登氏(特定非営利活動法人暖家、生活介護事業所・相談支援事業所かすみ荘管理者)を講師に迎えて、研修報告を兼ねた講演会が開催されました。

テーマは、「米国イリノイ州のPCP(Person-Centered Planning)の取り組みについて」。障害者本人を中心とした支援計画づくりについて、米国での実践やその背景にある思想や文化について、ご自身のこれまでの現場経験を踏まえた考察と共に、詳しく報告してくださいました。研修の内容については、前号のニュースレターをご覧ください。参加者は、10名ほどでしたが、とても内容の濃い講演会でした。



講師工藤氏の話に熱心に聴く聴衆

<2018年度総会予定>

ご案内は、詳細が決まり次第お送りします。

日時：2018年5月19日(土) 午後1時30分
会場：未定

<< 2018年度会費納入ご協力のお願ひ >>

新年度の会費の納入をお願いいたします。また、過年度の会費が未納の会員各位には併せて納入をお願いいたします。(年会費 3000円)

郵便振替口座 番号 00270-4-54121

加入者名 CIF ジャパン

銀行口座 三井住友銀行 八王子支店
(店番号 843) (普) 7815136

口座名義 CIF ジャパン出納責任者梶村慎吾

CIF 本部の動き・・・

CIF の将来のあり方について 意見、提言、夢を募集

2017年9月ギリシャで行われたCIF代表者会議において、「CIF2028年委員会」の設置が決議された。5名の委員が行った「CIFの現状分析」をたたき台として、広く世界各国の会員から“CIFの将来のあり方”について、意見、提言、夢を募集している。

「現状分析」によるとCIFの活動はA.国際研修(20か国)、B.国際大会(隔年)、C.広報、D.組織運営と財政管理の4つに大別され、それぞれに良い評価と課題がある。共通する良い評価は、すべて会員によるボランティアで円滑に運営されていること、課題はその活動の担い手が高齢化しており会員が減少傾向にあること(2014年700人、2017年550人)。解決策として、国際研修、国際大会などを他の国際団体(たとえば国際社会事業学校連盟、国際ソーシャルワーカー協会など)と共同開催してはどうかという提案もある。2018年3月末までにメールにより意見を集約し、8月にワークショップと代表者会議を開催(ともにウィーン)、今後2年分の行動計画を策定する。

なお、2019年のCIF国際大会は6月末にフランス(サン・マロ)で、2020年の代表者会議は11月末にモロッコ(マラケシュ)で開催の予定。

「CIF現状分析(和訳)」のご請求、ご意見、ご提言、夢は事務局 cifjapan08@gmail.com へ



2017/9/16 IPEP 準備会風景 右より、横田、佐野、橋本、坂本、かんしゃ、上利の各氏
(撮影：坂岡)

《編集後記》

今回は、昨年秋に行われたIPEP報告特集となりました。研修生4名のレポート集は、本号別冊として発行しています。併せてご覧ください。次回のIPEPについては、これから検討していくことになります。皆様のご協力を引き続きよろしくお願い致します。

ニュースレターへの投稿もお待ちしています。(TS)